

センサー

1979年 1月号 第4号

東京温度検出端工業会 会報

巻頭言

新春随想

副会長 西村 明
(西村工業株式会社取締役社長)

世の中には、こうしたら良いとわかっている事でも、中々実行出来ない事が多い。人間は複雑なもので、理屈ではわかっているでも感情では反対する場合もあり、又総論では賛成であっても事が自分自身の利害に関係してくると反対する事もある。

一国の政治に就いてもそんな事がある。福田内閣が倒れて大平内閣が成立した。処が政治評論家諸氏の批評では、内閣が変わっても政策の選択の余地が非常に狭くなっている、実際やる事は大差あるまいと云う。本当にそうだろうか？ 現在政治の面で大した問題が無ければ良いのだが、そうではあるまい。例えば財政の大赤字の問題がある。円高の問題も、現在は一服状態だが、いずれ再燃するだろう。

財政の赤字を解決しようと思へば、一方では大巾な行政機構の改革をやって歳出を減らし、他方では増税をして歳入を増やすという両面の政策を取らねばなるまい。この中で増税だけはどうかやらずに実行しそだが、あれ丈問題になった医師の優遇課税の方はほんの名目しか変わらないと云うのではどうも納得しかねる。一方の行政改革は、歴代内閣が唱えて来たが実効が上った例はない。政策を立てるのが官吏であって見れば、自分の首をしめる様な改革は絶対にやらないだろう。

同様な事は円高問題にも云える。この問題は更に各国の保護貿易的な政策も相乗され、日本の立場を一層苦しくする事になる。そこで、少くとも米国を中心とした保護貿易的政策を変えさせる為には、農産物の全面自由化が考えられる。之は単に政策を変えさせる丈でなく、外に強く内に弱いと云われる円の実質価値を上昇させることにもなるし、何よりも消費者の為になる。消費の中心が衣食住にある事は昔も今も変りはない。その中で衣だけは諸外国と比較し、特別に日本が高い事は無い。しかし一番中心となる食と住は、先進諸国の内で恐らく最も高いだろう。住に就いては国土が狭く人口が多いので解決は難しい。しかし食の方は、第一次産業製品の自由化を行ない、流通機構を整備すればたちまち価格は下るだろう。勿論、之に依って打撃を蒙る人達も少なくはない。だが絶対数としては、恩恵を受ける方が圧倒的に多い。従って政府としては、打撃を蒙る人達の救済は考える必要があるが、大多数の利益の面に行動する事は当然だろう。その当然が出来ないのが日本の現状である。

政治の面では一番不合理な事が多いようだ。

経済の面では、余り不合理な事をやっている会社がつぶれてしまうといった点で、政治の世界よりは合理的な動きをしているが、細かく見れば此処でも理屈に合わぬ事が若干ある。例えば所謂過当競争という様な事だ。商売の世界での競争はあるのが当然であり、それに依って品質の向上もコストの低減も出来るので競争を否定する積りはない。しかし、殊に物を生産する場合適正な原価というものには当然あるので、そのコストを割って迄売るのは出来ない筈である。処がお互に競争をすると最後はコスト割れ迄行ってしまう場合が時々ある。こんな事にはなりたくない。そうかと云って、現在の低成長下、売上をどんどん延ばして増産によってコストを引下げる事も難しい。どうすれば良いか。答は皆さんの頭の内にあると思うので此処では敢て申上げない。

さて今年の景気はどうかと云えば大多数の人が昨年と同様か、又は成長率はむしろ低下するだろうと予想している。しかし、私は、企業としては今年は利益を上げて行く年になると思う(勿論構造不況業種では無理だが)し、又それで無ければ今後の存続は難しいとさえ考える。その為にもお互によく考える必要があろう。

当工業会も発足後四年を経過し、それなりの基盤は固まって来た。本年はこの基盤の上に立って、我々に役に立つ会に発展させて行く必要がある。役に立つ立たぬは会員の皆さんのお考えを会の運営に反映させて行くかどうかできる。単なる懇親会的な会でも無意味では無いが、より実効のある会に育てて行く事をお願いする次第である。

第一回ゴルフ大会の報告

5月の総会後の懇親会での雑談から誰からともなくゴルフでもやりましょうか、という話が出て、理事会にはかりましたところ、ぜひ開こうではないかということになりました。この決定をうけて、10月28日にラフォーレ修善寺カントリークラブで行うこととし、会員の皆様に参加を呼びかけました。

前日になり仕事の都合で欠席される方もありましたけれども最終的には、11社、14名により大会は行われました。

ほとんどの参加者は前日からホテルに泊り込み、翌日のプレーに影響の出ないギリギリまで飲むものを飲んで懇親をはかられた方も多かったようです。

前夜は、雨・風ともに強く天候が心配されたのですが朝起きてみますと、うそのような好天気で、一同気分良くスタートすることが出来ました。もっとも天気の良かったのは、午前のハーフランドを回るまでで、午後はまた天気はずれ、ひどい状態になりました。霧が濃く視界は2~30m、打った瞬間に球が見えなくなる状態。事故が無いように声をかけ合いながら、ともかく無事に競技を終了することが出来ました。しかし、不思議なものだと思うのですが、コンディションの良かった午前中より、悪い状態でプレーした午後のスコアの良かった人がほとんどであったというのは、どういうことなのでしょうかね。

最初でするので各自のハンディーがわかりませんので変則キャロウェイ方式で順位を決めました。

順位

優勝	伊藤恭郎	古河特殊金属工業(株)	グロス	91	ネット	74
2位	荻野紘一	相互電気(株)	グロス	91	ネット	74
3位	林和夫	林電工(株)	グロス	111	ネット	75

(1位、2位は同スコアのため、年齢差によって決めた)

参加者全員の平均スコア(グロス)は103という結果でした。

表彰式のあと、今後の運営を相談し、1年に2回は開催することを約束し、散会しました。今後とも1人でも多くの方に参加していただき楽しい大会にしてゆきたいと思います。

会社紹介

(株)岡崎製作所

現在の社名に変更される以前、古くは戦前から熱電対の輸入業務を行っていたということであり、輸入貿易のかたわら昭和30年代には国内での加工にも業務を広げられ、特にエアロパック、レジオパックの商品名で販売されているシース熱電付、シース抵抗体は良く知られ業界内ではおそらく知らない人はいないのではないのでしょうか。最近では西独デグサ社との合併で抵抗体素子を作る会社を設立されるなど、ますます仕事を多様化し、また系列子会社も多く温度検出端の専門メーカーとしては、トップメーカーであろうと思います。今後も様々な面から業界を、リードしていただけることを期待します。

代表取締役社長 岡崎 一 雄
本 社 神戸市葺合区御幸通1-1-3
電 話 078-251-8200

大昌電機株式会社

設立は昭和27年であり、温度検出端、及計測器の販売、計装工事を中心に営業しておられます。新日本製鉄(株)との関係が深くしたがって各事業所も、この製鉄所の所在地(室蘭・釜石等)にそれぞれ開設され

ています。社員は約 200 名ほどで最近システム機器等にも仕事を広げられておられるということです。なお、現会長の柴崎様は、我々の工業会の初代会長をお願いしていた方であります。

代表取締役会長 柴 崎 昌 雄
代表取締役社長 一 之 瀬 文 夫
本 社 東京都大田区東馬込2-19-10号
03-776-1141(代)

理 事 会

隔月（偶数月）に定例理事会を開催し、会の運営を討議した。

◎ 2 月 2 日

専門部会担当

標準価格見直しにシース抵抗体を追加し、作業を急ぐ。

技 術 担 当

技術講習会を2/末～3/中に開催する。

広 報 担 当

イ、会報は総会後に発行する。

ロ、新年懇親会に21社29名が参加した。

渉 外 担 当

都立工技センターとの共同研究会を2月22日に開催する。

◎ 4 月 6 日（定例）

専 門 部 会

事務局で連絡をとり標準価格見直し作業を推進する。

定時総会開催要領について打合せ

◎ 6 月 9 日（定例）

昭和53年度事業計画について検討

専門部会担当

イ、標準価格見直し作業を促進し最終的に標準価格表をまとめる。

ロ、貴金属素線部会を早急に開催する。

ハ、オーナー会議を企画立案しなるべく早く実施する。

渉 外 担 当

イ、都立工業技術センターとの共同研究会を年度中に3回開催。

ロ、「電気計測工業に関する展望」53年版の説明会を行う。

技 術 担 当

イ、今年度中に技術講習会を3回以上行う。

ロ、今年度中に見学会を2回以上行う。

広 報 担 当

会報を年度中3回以上発行。

◎ 8 月 30 日（定例）

専門部会担当

イ、標準価格見直し原案10月頃までにまとめる予定。

ロ、貴金属素線部会の結果報告。

広 報 担 当

懇親ゴルフ会を10月28日にラフォーレ修善寺にて開催する。

◎ 10 月 5 日（定例）

会 長

イ、日本電気計測器工業会訪問、横河会長、中川専務理事と会談し、計測工業展参加について前向きの回答を得た旨報告。

ロ、貴金属素線部会の前回申し合せは白紙撤回する旨報告。

◎12月7日（定例）

専門部会担当

標準価格見直しを急ぎ年内にまとめる。

技術担当

工場見学会を4月に実施し、その前に技術講習会を開催する。

渉外担当

計測工業展参加の可能性を確認し、2月理事会にはかる。

広報担当

イ、会報は新年懇親会に間に合うよう発行する。

ロ、新年懇親会は明年1月26日に開催する。

以上

会の動き

- ◎新年懇親会 1月27日 築地「治作」に於て、参加21社、29名。
- ◎第2回共同研究会 2月22日 都立工業技術センター会議室に於て。
- ◎白金メーカー懇談会 2月27日 徳力本店にて、4社および事務局10名出席。
- ◎技術講習会 3月13日 T O C 会議室にて、29名出席。
講師およびテーマ
1.最近の補償導線の技術的話題 古河特殊金属(株)技術部長 河野 充氏
2. I E C の動向について (株)岡崎製作所 常務取締役 佐藤祐典氏
- ◎第5回定時総会および懇親会 5月26日 東海大学校友会館に於て、32名出席。
- ◎貴金属素線部会 6月21日 西村工業会議室にて、15名出席。
- ◎第3回共同研究会 6月22日 都立工業技術センターに於て。
- ◎「電気計測器工業に関する展望」説明会 8月30日 T O C 会議室に於て
講師 日本電気計測器工業会 専務理事 中川 隆氏
- ◎第4回共同研究会 9月27日 都立工業技術センターに於て。
- ◎第1回懇親ゴルフ会 10月28日 ラフォーレ修善寺&カントリークラブにて、参加者14名。 以上

編集後記

簡単な会報ですのに発行が遅れ遅れになり申し訳ありません。

ようやく4号をお届けすることになりましたが今後も何とか頑張りますので、原稿の執筆など、お願いすることがあると思いますがその時はよろしくお願い致します。

昭和54年1月発行 No. 4

発行所 東京温度検出端工業会

事務局

東京都品川区西五反田1-13-11(西村ビル)

電話 494-0671